

子育て講演会

令和4年8月11日(木)

参加者 10組

大人 12名 乳幼児 15名 計27名

演題「心の栄養」



体験談

絵本で楽しむ



～絵本で 子育て 自分育て～

講師:佐賀女子短期大学 名誉教授 白根 恵子 先生



お子さんを膝の上のせてもらっていいですか？歌いながらゆらゆらしてください。

♪ 「馬は…馬は…強い」
「…乗り手さんも強い」

直接の肌のふれあい(肌のぬくもり、心のふれあい)、言葉かけが何より大切

いつの間にか便利なもの(スマホなど)が多くなり直接のふれあいが減っている。

絵本は、家族の心のふれあいのための道具

特に3か月までの赤ちゃんには子守唄やわらべ歌などによる、肉声での言葉かけが欠かせません。

「いないいないばあ」の のんちゃん は男の子？女の子？絵本はどちらにも見えるように作られている。

4か月の子が手足をバタバタして喜んでくれた。意味は分からないのだろうが、自分の顔を見て話しかけられるのが嬉しいんです。

長男には、ずっと読み聞かせをしていたので、本を好きになってくれたら、見事につまずいた。

原因は「引越越し、赤ちゃん返り」をし、情緒不安定に。いろいろ考えて考えて「本を読んであげよう」と考えた。4か月を過ぎた頃、「かじゅうたちのいるところ」という本に出会った。この本が救ってくれた。

子どもが何度も同じ本を持つてくるときは

本が子どもの気持ちをややしている

何度も読んであげてください。

どんなに叱っていても寝る前にちゃんと読んであげる。仲直りのサインになる。私自身も、本から育てられた。

4～5か月から視力が安定してくるので、絵も楽しめるようになります。また、くいかえしの音を喜びます。

0歳前半は赤ちゃんの表情を見て、反応をキャッチしながら読みましょう。

7～8か月には、ほいほいもできるようになり、食べ物や生き物などの認識絵本にも興味を示します。

絵本は、子どもの心の根っこを育てる大切な役割



多久市でも急激に新型コロナ感染者数が増加(この時点での最多数:83名)し、大変心配される中での開催でした。参加者はそれぞれ感染拡大防止対策を踏まえ、集中し熱心に取り組んでいました。

参加者からは「絵本の読み聞かせで子どもの変化や情緒が知れるひとつのバロメーターになることが、とても印象に残りました。ありがとうございました。」「自分の子も今後、この1冊という本が見つかる」といふも思った。自分自身も絵本は好きなのでたくさん読んであげたい。」「3歳育児で上の子の赤ちゃん返りに悩んでいたりで、自宅でも実践してみようと思った。」「今日のお話を聞いて最近、家遊びするときに絵本を読み聞かせることがなくなっていたことに気づきました。子どもの心の成長や言葉の学びになるということを改めて教えて頂いて、今日からまた、自宅でも本とのふれあいを増やしていきたいと思いました。」など、とても好評でした。

